

授業計画（シラバス）

<p>■科 目</p> <p style="text-align: center;">歯科放射線学</p>	<p>■講師名</p> <p style="text-align: right;">大塚 航平</p>
<p>I 部 2 学年 前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)</p>	<p style="text-align: right;">総時間 15 時間 講義 1 単位</p>
<p>■学修概要</p> <p>放射線の原理および放射線検査の仕組みや画像診断の能力を身につけていく。</p>	
<p>■授業目的、到達目標</p> <p>放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野であり、画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら、放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これを踏まえて、将来歯科衛生士になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。</p>	
<p>■授業方法</p> <p>パワーポイントを用いたスライド形式にて行う。</p>	
<p>■教科書（書籍名・出版社）</p> <p>歯科衛生士講座／歯科放射線学 永末書店</p>	
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>成績は定期試験、平常試験、出席状況および受講態度等の総合評価をもって行う。</p>	
<p>■実務経験</p> <p>日本大学松戸歯学部放射線学講座にて、CT・MRI 検査の画像診断および研究を行っている。</p>	
<p>■授業計画（講義の流れ）</p>	
<p>1</p>	<p>エックス線とその性質</p>
<p>2</p>	<p>放射線の人体への影響</p>
<p>3</p>	<p>口内法エックス線検査、現像、デジタル処理</p>
<p>4</p>	<p>パノラマエックス線検査、口外法</p>
<p>5</p>	<p>放射線の防護、影響および法的規制、放射線治療</p>
<p>6</p>	<p>全身用 CT、歯科用 CBCT、MRI 検査、核医学検査、超音波検査</p>
<p>7</p>	<p>歯および歯周組織の病変・炎症性疾患の画像診断、嚢胞および腫瘍の画像診断</p>
<p>8</p>	<p>定期試験、解答解説</p>